

復興への願い込め、岩手から全国へ

音楽ユニット「underpath!」

後藤 雅弘 さん



指し始め、翌年春には、NHK総合テレビの音楽オーディション番組「熱唱オンエアバトル」に出場し、2000組を超える挑戦者の中から3位という成績を収めました。

後藤雅弘さん(30歳・鳩岡崎在住)と、美香さん(大槌町出身)による音楽ユニット「アンダーパス!」は5月4日初めてフルアルバム「ALIVE」を全国発売しました。「アンダーパス!」は、「岩手にいるからこそ書ける歌」をキーワードに、「地元のみながあらためて岩手を見つめ直せるように」そんな想いを胸に岩手を拠点に活動しています。後藤さんは、「UNDERPASSIC」というCD制作・販売会社も立ち上げ、市内の自宅にはスタジオも整備しました。

2009年には、NHK盛岡放送局の「いわてみんなのうた」で「たたりら」という子ども向けの曲をリリース。今まで出したCDは、「わんこきょうだい」くらいではございません。など10枚ですが、全国販売するのは今回が初めて。時代に合わせつつ、個性を入れたアレンジができるアーティストになることが現在の目標。



underpath! MASAHIROさんとMIKAさん

じていることを言葉につづり、音楽にしないではいけません。残さなくてはいけない」と感じ、無我夢中でアルバムを作成。1曲1曲に力を注ぎ、そのときでできる最大限でやりきれないと意味がない」と妥協しません。

タイトルの「ALIVE」には「生きるということにメッセージを込めたかった」と言います。今後は「歌と共に県内外に足を運び、被災地の人の様子、復興の様子などを伝えて行く活動をしたい」と熱い思いを語ってくれました。

国際交流ルーム発

ハロー! まいふれんど ⑬④ いわたの「生活」から学ぶ初級中国語講座 スタート

国際交流ルームでは、初級中国語講座を、今月から毎週火曜日午後2時から3時30分まで生涯学習センターで開講しています。

これは身の回りの生活場面から中国語を学ぶという新しい企画です。昨年外国人が日本語を学ぶために当ルームで編集・出版した『いわての「生活」日本語』というテキストを用い、講師はその本の中国語訳を担当した菊池紅さん(遼寧省瀋陽市出身)です。

紅さんは中学2年から大学まで9年間日本語を学習。その後吉林市医科大学で6年間の日本語指導経験も含め計30年も「日本語漬け!」の毎日です。テキストは「市内の各地で中国語の講師をしましたが、文法にこだわらず、絵や写真が多く習う人も教える

人も使いやすい」と、紅さんにも受講者にも好評です。

両方の言語・文化の違いを楽しく学べるような講座にしたいと熱心な意欲が伝わってきました。



絵や写真を使って教える菊池紅さん

国際交流ルーム
電話・ファクス：63-4497
電子メール：kiah@kitakami.ne.jp
おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内
開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時
休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



中央図書館 ☎ 63-3359 江釣子図書館 ☎ 77-2215 和賀図書館 ☎ 72-2322
 中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

《6月の新着本から》

- ▼ 一般書
- 高校生のための東大授業ライブ ガクモンの宇宙 東京大学教養学部
 - 新島八重 愛と闘いの生涯 吉海 直人
 - 大震災で住宅ローンはどうなるのか 島本 慈子
 - せいめいのはなし 福岡 伸一
 - 気づいていますか認知症ケアの落とし穴 安西 順子
 - 妊婦食堂 現代妊婦さんの低栄養を解決する 「定食」レシピBOOK 妊娠食育研究会
- ▼ 児童書
- 94歳から10代のあなたへ伝えたい大切なこと 吉沢 久子
 - おっちゃん、なんで外で寝なあかんの？ 生田 武志
 - よろしくともだち 降矢 なな 絵
 - いろいろおふろはいり隊！ 西村 敏雄 絵
 - とびだせにひきのこぐま 手島 圭三郎 絵・文
 - バツタさんのきせつ エルンスト・クライドルフ 作
 - ダヤンと恐竜のたまご 池田 あきこ

《7月のイベント情報》

■おはなし会

- 7月8日(日) 午前11時～11時30分 中央図書館
- 7月15日(日) 午前11時～11時30分 和賀図書館

《おすすめ新着本》

『すべては今日から』



児玉 清／著
新潮社

もっと小説を読んでください。未来を築くために。何事も「今日から」と前向きに生きた愛書家俳優が、本と付き合う作法から日本への思いまで幅広く書き遺したエッセーと書評を収録。

『おかあちゃんがつくったる』



長谷川 義史／著
講談社

おかあちゃんは、ぼくの欲しいものを何でもミシンで作ってしまう。でも、作ってくれるものはちょっとかっこわるい。子どものことを何よりも一番に考えてくれるおかあちゃん、あったかくて、せつなくて、でも笑える家族の物語。

兵馬俑坑を視察して



三門峡市友好訪問にあわせて西安を訪れた。唐の時代にシルクロードの東の拠点として栄えた街である。

5月21日、西安は小雨。今日はいよいよあの兵馬俑坑を見ることが出来る。ホテルを出発し、西安市街地の北東方の郊外約30分程の所にある兵馬俑坑へ。秦の始皇帝が死後も西安の城を守るべく、自分の生活の一部をコピーしたものである。おそらく風水で作ったと想像される。

入り口付近は派手な土産物売り場が並び、少し雰囲気削がれたが、電動カートで坑に近づくのと体育館のような大きな建物がいくつも並んでいる。一号坑から三号坑、埋蔵品の展示館などである。発掘や復元が進んでいる一号坑から見て歩く。多くの破片が出

てきたという、農民が掘っていた井戸の跡もしっかりと残されている。一号坑には約6千の歩兵隊を中心とした隊列がある。二号坑は司令部。三号坑は騎馬隊、馬車隊を中心とした隊列だ。始皇帝陵からは約1・5kmの距離にあるが、平時も軍隊を居城から同距離に置いていたとのこと、ここからも生前のコピーであることが見て取れる。また、埋蔵品の展示館では青銅で作られた馬車2台が展示。解説してくれた侯さんによると、車列は9台あるはずとのこと。展示されている2台は馬が4頭であり、始皇帝のものではないそう。始皇帝の馬車はこれから発見されるのではないかと、その馬車は金で出来ているかもしれないとは、彼の想像である。今後の発掘調査が本当に待ち遠しい。

素晴らしい兵馬俑坑の視察で、今回の全ての訪問日程が終了した。

